

平成 28 年 4 月 6 日 午前 11 時頃。

参道に二箇所、立ち入り禁止の看板と立ち入り禁止の詳細を記した掲示物がありながらも、男性 2 名が立ち入ってきた。

男性は大蔵寺従事者に対し、『自分は〇〇先生の弟子です』と話し出すので従事者は〇〇先生とは何の御方か問うと、〇〇先生とはどうやら写真家の大御所らしかった。

従事者が要件を問うと写真撮影が目的で、入山の許可を得に来たと述べるので、写真家や行楽は一切お断りしている旨を説明し、参道掲示物にも記してある事を伝えた。

加えて立ち入り禁止を無視して入山したきた事を咎めると『自分は〇〇写真協会に所属している』云々と語り、〇〇写真協会の会員証を提示してきた。

従事者は参道掲示物にもあるように写真家はお断りである事を何度も説明したが『自分はマナーには気をつけている事を知ってもらいたい(彼者がここに居る事自体がマナー違反)』等と、こちらの説明がまるっきり理解されていない回答をするので、従事者は強くお引き取りを願い、下山をさせた。

そもそも、立ち入り禁止を無視した者が、突然現れて〇〇先生の弟子であると言われても、一体何の事か解らない。

また我々には〇〇先生が何処の誰であるか、何の先生であるかも解らない。

その業界の大御所の名を出せば便宜をはかってくれると思つての発言であろうが、我々にとっては他所の権威など、どうでも良い事です。

さらに〇〇写真協会の会員証をしたり顔で提示されても対応に困ります。

はっきり申し上げれば『〇〇先生の弟子である。』『〇〇写真協会の会員証です。』と言われても、だから何だと言うのが正直なところです。

そもそも、立ち入り禁止写真家お断りの看板や掲示物がありながらも堂々と入山し、写真撮影の許可を求めて来た事自体がマナー違反であり、掲示物には【予約無しの来訪は受け入れられない】旨の文言も記してあります。

最近、このページの更新が滞っていましたが、〇〇先生の弟子である、〇〇写真協会の会員である、とって入山許可を強行に求めてくる写真家、写真愛好家が後を絶たない事から、〇〇写真協会にこの件を電話にて苦情を入れ、ここに掲載しました。

我々の苦情に対し、〇〇写真協会は丁寧に対応して下さり、特権や権限を主張する為の物ではないとの事で今後、同様な事が起きたら即、協会に連絡を下さいとの事でした。